

研修会報告

令和 6年 7月 16日

文責： 千葉 勇希

研修会テーマ「理解して報告する血算・凝固検査（基礎篇）」

開催日時 令和6年7月13日（土） 14：00～16：15

会場 Zoomを用いたWeb開催

司会 東北医科薬科大学若林病院 加賀 淑子

仙台市立病院

千葉 勇希

生涯教育点数 専門教科 20点

参加者 会員参加者 104名

入会申請中会員 0名

非会員 0名

賛助会員 2名

学生 0名

合計 106名

講演1 14:00～15:00（質疑応答含）

「血算の基礎知識」

ベックマン・コールター株式会社 ダイアグノスティックス営業統括本部

東日本統括部学術クリニカルアプリケーション 吉田 隼太 先生

講演2 15:15～16:15（質疑応答含）

「その検査結果大丈夫？～凝固検査における検査前段階の重要性～」

東北大学病院 牧 優冶 技師

16:30 終了

内容

本研修会は、『理解して報告する血算・凝固検査（基礎篇）』をテーマに、検査機器や検査法の特徴を学び理解し、異常値が出た際の確認ポイントを学ぶことを目的に企画した。講演1では、自動血球分析装置の原理から測定誤差の要因、さらには異常値を認めた際のデータの考え方について疑似症例を提示していただきながら講演していただいた。異常データを捉えるためには分析装置の特性や原理を理解しておく必要があるため、非専従技師だけでなく、血液検査を担当している技師にとっても知識の再確認となる非常に有益な講演であった。

講演2では、凝固検査における検査前プロセスの重要性について講演いただいた。凝固検

査は採血や保存、遠心条件など検査前の工程がデータに影響を与える。不適切なデータの報告は患者の病態や治療効果の判断に影響を与え、場合によっては医療過誤となる可能性がある。検査前プロセスの標準化を図る目的で検査血液学会から凝固検査検体の取り扱いに関するコンセンサスが示されている。今回の講演では実際にあったピットフォール症例を交えながらコンセンサスの遵守がいかに重要であるかを解説いただいた。今回の講演を機に自施設での検査環境を今一度ご確認いただきたい。

今回の研修会は県外からの参加者も数名おり、100名近い方が参加した。今後はアンケート結果を参考に、参加者が楽しく血液検査を学べる研修会を企画したい。